

No. 6

2011年 10月

これまで日常生活の活動、感覚教育についてお話ししてきました。
今回は「数教育」についてお話ししましょう。

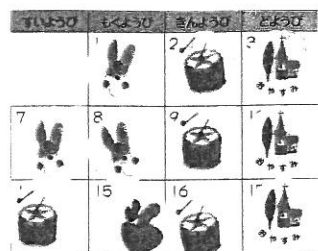
「数教育」と聞くと、幼児に数などまだ早い、難しいのでは？と思われるかもしれませんが、私たちの生活の中で、たとえば一定時間がくればお腹がすき、眠り、目が覚めま



これらの一日の生活自体、実は数と深い関係を持っています。
その深い関係とは、

例えば…

出席カードのシールを枠の中に貼ること



・順番通りシールを貼ることは数につながります。

子どもは2歳ぐらいからコップに注がれたジュースの量が多いか少ないかで兄弟げんかをします



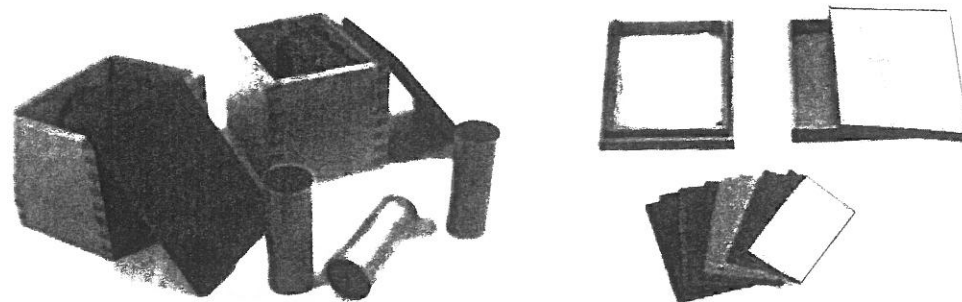
・これは、どちらのコップのジュースの量が多いかが分かっているからです!

このように生きていることは、直接的にまた間接的に数と関わっています。
そして、感覚教具に触れることも数教育につながります。

1. 対応づけ (同一性さがし)

(例) 雑音筒、布あわせなど…

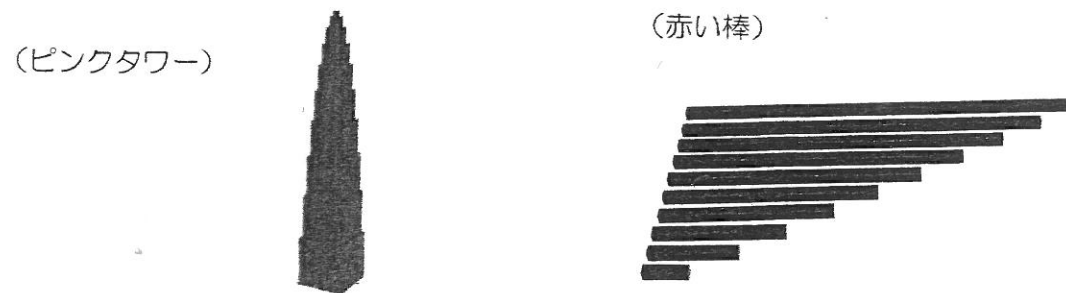
☆たくさんある中から同じものを選ぶあたりの働きの練習
☆数量と数字を正しく対応させるための準備



2. 順序づけ (漸次性さがし) ぜんじせい 漸次→しだいに、だんだん徐々に変わる

(例) →ピンクタワー、赤い棒など…

☆数の1、2、3…が一定の漸次的な変化を追っていることを知らせる準備



3. 分類づけ (類似性さがし)

(例) 重量板

☆加減場所の四則の計算に入る時、位取りを揃える時などに必要

